⑶　以下に定める届出の義務を履行していない建設業者（当該届出の義務がない者を除く。）でないこと。
　㋐　健康保険法（大正11年法律第70号）第48条の規定による届け出の義務
　㋑　厚生年金保険法（昭和29年法律第115号）第27条の規定による届出の義務
　㋒　雇用保険法（昭和49年法律第116号）第７条の規定による届出の義務
⑷　平成11年度以降に、以下に掲げる工事完工実績（元請けに限る。）を有すること。ただし、同一工事ですべての工事完工実績を有する必要はない。なお、共同企業体の構成員（代表者を含む。以下同じ。）としての実績は、出資比率20%以上の場合のものに限る。
　①　単体又は共同企業体の代表者
　・鋼管ソイルセメント杭基礎、深礎杭基礎及び直接基礎形式の橋梁基礎工事
　②　共同企業体の代表者以外の構成員
　・鋼管ソイルセメント杭基礎、深礎杭基礎及び直接基礎のうちいずれかの基礎形式の橋梁基礎工事
⑸　現場代理人、次に掲げる基準を満たす専任の主任技術者又は専任の監理技術者を契約締結日の翌日までに本工事に配置できること。
　なお、主任技術者又は監理技術者は、現場着手日の前日までの期間については、必ずしも専任を要しない。現場着手は、平成27年６月１日（月）を予定している。
　①　主任技術者及び監理技術者は、以下のア～ウのいずれかの要件を満たすこと。
　ア　建設業法（昭和24年法律第100号）第27条及び建設業法施行令（昭和31年政令第273号）第27条の３の規定による技術検定のうち、１級土木施工管理に関する検定種目に合格した者（以下「１級土木施工管理技士」という。）
　イ　技術士法（昭和58年法律第25号）第６条及び技術士法施行規則（昭和59年総理府令第５号）第11条の規定による第二次試験のうち、建設部門に合格し、かつ、同法第32条の規定により技術士登録簿に登録を受けた者（以下「技術士（建設部門）」という。）
　ウ　ア、イと同等以上の資格を有するものと国土交通大臣が認定した者
　②　監理技術者は、建設業法第26条第２項に規定する技術者であり、競争参加資格確認申請書の提出時に監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。
　③　配置予定技術者（主任技術者又は監理技術者、及び現場代理人）のうち少なくとも１名は、平成11年度以降に以下に掲げる工事を完工した実績を有すること。なお、工事の経験における従事役職は問わない。
　・鋼管ソイルセメント杭基礎、深礎杭基礎及び直接基礎のうちいずれかの基礎形式の橋梁基礎工事
　上記工事は平成11年度以降に単体又は共同企業体として完工した実績（元請に限る。）とする。なお、共同企業体の構成員としての完工実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。
⑹　入札に参加しようとする者の間に、資本関係又は人的関係がないこと（資本関係又は人的関係がある者のすべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く。）（詳細は「入札説明書」に記載）。
⑺　本工事に係る設計業務等の受注者又は当該受注者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者でないこと。
⑻　共同企業体を構成する場合においては、以下に掲げる事項をすべて満たしていること。
　①　共同企業体すべての構成員が、本工事に対応する建設業法の許可業種につき、許可を有しての営業年数が５年以上であること。ただし、相当の施工実績を有し、確実かつ円滑な共同施工が確保できると認められる場合においては、許可を有しての営業年数が５年未満であってもこれを同等として取り扱うことができるものとする。
　②　共同企業体すべての構成員が、本工事に対応する建設業法の許可業種に係る監理技術者又は国家資格を有する主任技術者を工事現場に専任で配置することができる者であること。
　③　共同企業体すべての構成員が、均等割の10分の６以上の出資比率であること。
　④　共同企業体の代表者は、構成員の中で最大の施工能力を有する者であって、その出資比率が構成員中最大であること。
⑼　競争参加資格確認申請書の提出期限の日から開札までに、首都高速道路株式会社から競争参加停止措置準則（平成17年準則第22号）に基づく競争参加停止を受けていないこと。
⑽　本工事と同一工種の首都高速道路株式会社発注工事において、競争参加資格確認申請書の提出期限の日から過去２年以内に40点未満の工事成績の通知を、過去１年以内に50点未満の工事成績の通知をそれぞれ受けている者でないこと。
⑾　首都高速道路株式会社発注工事において、工事成績の平均が平成24年度及び平成25年度の２年間連続して60点未満である者でないこと。

3　技術提案書に関する事項
⑴　技術提案書の作成　技術提案書の作成に当たっては、「入札説明書」に従い、基本条件を満足するよう十分な検討を行い、「入札説明書」に示す様式により作成すること。なお、技術提案書（3⑵の最終技術提案書を含む。）は、本工事に関連する資料で示される要件を満足させるものであり、本工事における施工方法として適正であるものとする。
⑵　最終技術提案書の提出及び技術提案書の評価　技術提案書の内容に係るヒアリング（技術交渉）結果を反映させた最終技術提案書を提出すること。技術提案書の評価は最終技術提案書に対して行う。
⑶　最終技術提案書の評価　最終技術提案書の評価項目は以下のとおりである。
　・施工に対する工夫
　①　東名高速道路法面内での基礎施工
　②　近接する構造物への配慮
　③　リスク管理
　④　品質確保
　・周辺環境への配慮に対する工夫
　⑤　安全管理
　⑥　環境対策

4　落札方式に関する事項
⑴　落札者の決定方法
　①　総合評価の方法　落札者の決定方式は、最終技術提案書の内容を3⑶に応じて評価した技術評価点（配点30点）と、入札価格から得られる価格評価点（配点30点）を加算した数値（以下「評価値」という。）によって決定する総合評価方式とする。
　評価値＝技術評価点＋価格評価点
　価格評価点は、入札価格により次のとおり算定される。
　入札価格≧低入札調査基準価格：
　20＋(10／(100－β))×(100－α)
　低入札調査基準価格＞入札価格≧特別重点調査基準価格：
　(30／(β－60))×(α－60)
　特別重点調査基準価格＞入札価格：0
　ここで、α＝（入札価格／予定価格）×100　β＝（低入札調査基準価格／予定価格）×100
　②　落札方式
　ア　最終技術提案書に基づき予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した技術提案者のうち、最終技術提案書及び入札価格から4⑴①によって得られた評価値の最も高い者を落札者とする。ただし、入札価格によっては、契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあって著しく不適当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち、評価値が最も高い者を落札者とする。
　イ　アにおいて、評価値が最高となる者が２者以上あるときは、その中で最も入札価格が低い者を落札者とする。入札価格も同じ場合には、くじ引きにより落札者を決定する。
⑵　低入札価格調査等　予定価格を大幅に下回る入札について、その価格によっては契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるか否かを判断するための調査（低入札価格調査）又は重点的に調査して判断するための調査（特別重点調査）を行う。低入札価格調査及び特別重点調査の調査事項については、首都高速道路株式会社の契約規則実施細則（平成24年財務部細則第２号）に規定している。